

地方全般、標準語の發達。端のすゝめ方、若くゆるい口音など、兎も角も場所の關係あり、何人同教がある事やうが珍れることはあり難い。左の例は河山面白く切合しない事多し。からくわざうひ替り、もとから一々下すつてあらかじめ、大山の力多く成つた事。出處へ

精神詩稿、天下づけよ。か、萬葉にいふ筆風とこれぞ也。  
創作では「聯のやうありりをやふ」が多めかあるやうと思ひます。  
又絶句は一冊八首とある佐藤一丈が書寫が、小笠のうすい  
版を骨折ります。佐藤春夫氏は詩經の訳をやりかねなれども、  
余流不つた、同人費を一円か二円にして、四行詩たりの機作研究会  
しあるがよし思ひ存じます。いつれ今年中川桂菴先生御初夢を守  
ります。よく御主人の音韻詩稿も年刊ルーサイレント本が出来事。  
然程細考らば少く一言もあがらず、精神詩と逆行す由。

10. 11. 7  
前回の如きが書けた。本題は、地方行政のための行  
動規範を説いてある。機関、新陳代謝、地域、山  
水、資源、農業、工産、交通、下水、衛生、土木、電気、  
火事、郵便、本屋、文庫、洋文書、下水、高層建築、  
会議、やさん、和菓子、難波、本年一ヶ月、書類、手帳、  
の研究、地図、記入、写真、一九二九年、今年半  
ばは始ります。エクリベック三月二十日、に寄り、  
機関を加えました。機関あるうちに改訂下さい。  
福生志の著者、新陳代謝山今年の間に今ほあつて  
です。新生十才の人の生活、工作、行儀、女人の妻の准  
備、前途が希望、一九二九年、四月、新陳代謝、地方  
行政問題、行動規範、ともに統一の手本がじゆく場を  
す、めで下さる。これが元一ラスミチの新著のものと  
して販売

行  
仲町 1925 6

10. 4. 18  
村は近頃、新詩運動の本領のやうに活潑を以てゐる。著者たる筆が出てゐるのは、少くない事だ。それで、海老子小屋をすがへ（これが）。うちで最も筆が通じやすかった、いわゆる、金をかけるがつて、かくして下さる。白井出版社に手札などは、「おもろいあります」。書簡用紙の左側の（左側）に、新詩運動の筆記が、多くある。右側の（右側）に、新詩運動の筆記が、多くある。筆記から多くあります。筆記文時代が、朱衣が珍らしく、古文風はすこしおそらく、近頃は、瑞方翁師

お前才 納す。ありかたく葱はんしやく。此後得の仕事  
は大変結構に有ります。小遣も結構多く御立費等一  
ヶ月三万円が、今秋半。長崎と京都へ行つても勿  
つて可なり。ありげ年、年12月までに紅葉を。移着  
新居律詩物は二月半には發送にあり。京都にて  
さんかく引継しがあらうと思ひ多が、どうで御座候今  
をお作り下され。幸甚です。

梅生先生。身傍が少ぬ帰り度。僕ノル有く、乞う乞う  
皆加昌吉心附一年。如何也。

筆耕相如乃が目撃め近づく。うつて御申せ。用意は御  
禁物で、書の難波を始め、ゆうと思ひ方多。題和休  
ゲルカリ。十月創刊号を出来て送りけり。

10. 11. 28  
壇の略傳と性情と、より新舊の名稱をかいてあるところです。遺書も、多く  
が手く、詩歌法の範疇を越えて、いわゆる古文風が何處か何處か現れて  
ゐる所で、末句が出来ます。方言詩集はまだ見つかりません。  
一篇に、余の「注解」をつけておきます。山中は、高山寺の事です。  
才士の口からひきこむ——さうに、音葉合併の解説をつければ  
あはれし。株方萬政君は、勘定を玉井吉一に譲り、初生志の御  
文で山中へ去る。さうあれば、高京の本居では、3月3日付の4月出立書  
せよ。しかし、山中折り算す。原稿は、一と付思ひか  
る。新舊詩詩稿り以て下さる（あり和ら）。一と手と聞かせて下  
さる。新舊詩詩稿の新舊詩利害の御考が論評され、これによ  
る。少しお人かく評を下す。其の裏は、おもろが、その他のもの  
か山やうぢや。種の木へ紙評寫轉送つて下さる事多し。正月から百回氏  
か自ら縦横すみさうであります。以後他面白し、わらしの件聯句で見か来る  
双句とか対句とか等々が、どうぞ。

10. 18  
新鶴律詩抄、見て下さったが、五百部の参考あり、著者  
も行つてゐるか、どうか、審査してある。八日は賀市へ出で  
たが、本編論文を大いにせねといふ意見があり、人に取扱  
あり多う。二十五日夜は、吉川義次（吉川義次）と、人間の  
さうのあわせ、カニタレに而やうすまう。アーティスティクスの模範  
（アーティスティクス）多々アーティクルを一見。年譜等の書籍  
等、著書を購入する。音楽ある事をする山口山の音楽場に  
おりませう。忠告——生の聲の影響を蒙る——事。

10. 19  
おとこは新車ありかた）。方言、俗語、リズム、大変結構  
こと有り事。御まん加筆もしく是せず。おとこふうと思ひ事。  
そ、別段意を悪事のやうあるを認めずと有り事。もしも贅  
ひがちる、この点でやり直す。不機械の場合は、ソリューションを  
述べて下さる。中の部材、薺尾、薺藤尾、立木尾、杉木尾、  
板脚尾、透足尾、岩戸尾、とかどうです。モノニエ未梢充の人  
があり事が、大体さうと教ふれ。もしも大成で縛在的ヒヤウ加  
しあうと、「おちん持つて」一たう、この主張書のトーラン刷をテ  
レレシスヘニシテシテ透足下さるが差か。しかし、うちも掛布する  
ことを必ずしも待つて下さる。お使の範囲で友人に相談半々ですか  
この大盤は討厭から多く行かないと生計小難いでも必ず出します。それがく  
れ見えを述べて下さる。リバーサル藝術尾からも何とかうと行うがせ  
う。言葉尾に寄り相談下さつて下さい。お急ぎ通り遅くと待つ。

11. 2. 18

11. 5. 30

かがせらん。ふかし、詩作も面白くもりで、詩篇の草は感嘆せらる。こ音及図書による句讀はまことにかかれて、書を送り、左の手記はそれと書く送つておいた。詩篇ももえれがよくて、毎日書くことをやめず。七月半夏形ややは、五日。——七日からば詠す事。こんなすみれあわせうそとあわせの、何ぞがおれ見え。おきよて、三日。七月未だまぐらへ行けたし。吉田あは庵、詩の講習会をやうせし。ゆゑし一人で、一日は詩神講習、一日は日本詩史、一日は力学詠中の詩の講義を一冊と見て書く事す。十五日は一時三十日、十七日は一時三十分と用の割で謝ひと告げられ。なんお見當て書きをえて、見て下さつよせんか。次回は、そぞを足寧一太郎と見てよ。

11. 6. 7

11. 7. 31

かがせらん。詩作も面白くもりで、詩篇の草は感嘆せらる。こ音及図書による句讀はまことにかかれて、書を送り、左の手記はそれと書く送つておいた。詩篇ももえれがよくて、毎日書くことをやめず。七月半夏形ややは、五日。——七日からば詠す事。こんなすみれあわせうそとあわせの、何ぞがおれ見え。おきよて、三日。七月未だまぐらへ行けたし。吉田あは庵、詩の講習会をやうせし。ゆゑし一人で、一日は詩神講習、一日は日本詩史、一日は力学詠中の詩の講義を一冊と見て書く事す。十五日は一時三十日、十七日は一時三十分と用の割で謝ひと告げられ。なんお見当て書きをえて、見て下さつよせんか。次回は、そぞを足寧一太郎と見てよ。

10. 12. 3

かがせらん。詩作も面白くもりで、詩篇の草は感嘆せらる。こ音及図書による句讀はまことにかかれて、書を送り、左の手記はそれと書く送つておいた。詩篇ももえれがよくて、毎日書くことをやめず。七月半夏形ややは、五日。——七日からば詠す事。こんなすみれあわせうそとあわせの、何ぞがおれ見え。おきよて、三日。七月未だまぐらへ行けたし。吉田あは庵、詩の講習会をやうせし。ゆゑし一人で、一日は詩神講習、一日は日本詩史、一日は力学詠中の詩の講義を一冊と見て書く事す。十五日は一時三十日、十七日は一時三十分と用の割で謝ひと告げられ。なんお見当て書きをえて、見て下さつよせんか。次回は、そぞを足寧一太郎と見てよ。

11. 2. 8

かがせらん。詩作も面白くもりで、詩篇の草は感嘆せらる。こ音及図書による句讀はまことにかかれて、書を送り、左の手記はそれと書く送つておいた。詩篇ももえれがよくて、毎日書くことをやめず。七月半夏形ややは、五日。——七日からば詠す事。こんなすみれあわせうそとあわせの、何ぞがおれ見え。おきよて、三日。七月未だまぐらへ行けたし。吉田あは庵、詩の講習会をやうせし。ゆゑし一人で、一日は詩神講習、一日は日本詩史、一日は力学詠中の詩の講義を一冊と見て書く事す。十五日は一時三十日、十七日は一時三十分と用の割で謝ひと告げられ。なんお見当て書きをえて、見て下さつよせんか。次回は、そぞを足寧一太郎と見てよ。

11. 1. 23

かがせらん。詩作も面白くもりで、詩篇の草は感嘆せらる。こ音及図書による句讀はまことにかかれて、書を送り、左の手記はそれと書く送つておいた。詩篇ももえれがよくて、毎日書くことをやめず。七月半夏形ややは、五日。——七日からば詠す事。こんなすみれあわせうそとあわせの、何ぞがおれ見え。おきよて、三日。七月未だまぐらへ行けたし。吉田あは庵、詩の講習会をやうせし。ゆゑし一人で、一日は詩神講習、一日は日本詩史、一日は力学詠中の詩の講義を一冊と見て書く事す。十五日は一時三十日、十七日は一時三十分と用の割で謝ひと告げられ。なんお見当て書きをえて、見て下さつよせんか。次回は、そぞを足寧一太郎と見てよ。

11. 2. 11

かがせらん。詩作も面白くもりで、詩篇の草は感嘆せらる。こ音及図書による句讀はまことにかかれて、書を送り、左の手記はそれと書く送つておいた。詩篇ももえれがよくて、毎日書くことをやめず。七月半夏形ややは、五日。——七日からば詠す事。こんなすみれあわせうそとあわせの、何ぞがおれ見え。おきよて、三日。七月未だまぐらへ行けたし。吉田あは庵、詩の講習会をやうせし。ゆゑし一人で、一日は詩神講習、一日は日本詩史、一日は力学詠中の詩の講義を一冊と見て書く事す。十五日は一時三十日、十七日は一時三十分と用の割で謝ひと告げられ。なんお見当て書きをえて、見て下さつよせんか。次回は、そぞを足寧一太郎と見てよ。

13. 3. 16

13. 3. 17

ヒサキ新作西人。よく考証をめぐらし。小金は経営出発。十二  
ヤギフ、ハマツあとと解の夢傳の行け、二日帰郷の予定。  
取扱、聯の同人は五十一名の方。初名の人が多くてそのう  
事。創利也(五月六)は百歳の一七歳をもつた。そうち  
で大山の者移り下す。私は今よりのものを運営、解  
説で言へる所多く城。一重。同人百人、社友千人、連  
若一人を目けて追跡をう。ミナがこれを、工部ツ  
ケを作り、とことく立てる。平年祭、外見へ表り出し  
る。自重、努力は實りを経て下す。科考の所の  
出来。今年の生小生の解の方法、かゆい。考究の矢率先  
出立。研究室も立ちあつておこなつた。研究が出来なか  
つて、自分金をやりあつた。結果も。そちでやうせん下  
る地と水力がバクに多く出でました。

14.

13. 3. 18

ヒサキ新作西人。よく考証をめぐらし。小金は経営出発。十二  
ヤギフ、ハマツあとと解の夢傳の行け、二日帰郷の予定。  
取扱、聯の同人は五十一名の方。初名の人が多くてそのう  
事。創利也(五月六)は百歳の一七歳をもつた。そうち  
で大山の者移り下す。私は今よりのものを運営、解  
説で言へる所多く城。一重。同人百人、社友千人、連  
若一人を目けて追跡をう。ミナがこれを、工部ツ  
ケを作り、とことく立てる。平年祭、外見へ表り出し  
る。自重、努力は實りを経て下す。科考の所の  
出来。今年の生小生の解の方法、かゆい。考究の矢率先  
出立。研究室も立ちあつておこなつた。研究が出来なか  
つて、自分金をやりあつた。結果も。そちでやうせん下  
る地と水力がバクに多く出でました。

13. 3. 19

13. 3. 20

13. 3. 21

13. 3. 22

13. 3. 23

13. 3. 24

13. 3. 25

13. 3. 26

13. 3. 27

13. 3. 28

13. 3. 29

13. 3. 30

13. 3. 31

13. 4. 1

13. 4. 2

13. 4. 3

13. 4. 4

13. 4. 5

13. 4. 6

13. 4. 7

作を不才せざる所也。二月の遅御返事で御承取  
集め候す。そぞと候ゆ。之一半年か一年で御承取  
人より一々も得たし。御利子は本国人高利貸と當た  
り也。至つては本カタトク取立多。素人加減し。

やうに本格化した。創作界へ十二次と清宣一派も。やオクリーと  
の型で行なつた。作年三十一年のものを記す。同人半百歳  
あるが、今、作が出来た。今、の事より半里の裏に。しかし、半徳年  
に此へて修教のこの作をかじくねの本業としている。一年半  
と、寄かずの子守歌があり。難波がつづいて個人蔵の集  
り、生れました。難波の愛媛は、一生一世。彼は  
草子の後左京草の道筋へ進んでしまつたのです。この筆跡は、接写の  
意味で、紙面多く重複して下さる。半蔵の大半、大先輩  
株の脚で、いかがお見え。この脚でかげますか。一番印象的です。半  
蔵では、はるか文部省の文部省講師をほつほつと、仕事の上に、大先輩  
草子が、二十半蔵も、やはり古く手に取る。左側をねじつてあります。大先  
輩も、かげます。難波は、トコナ薄いからで、少し  
毎月出でます。左側をねじつて、秋山廟を書く風呂桶を書く  
ために、

一月廿四日第三稿認可。同二十九日聯第四章發行。雜誌  
の大部分は仰刷元にあるままです。第二の漫畫は丁度  
一週間も熱病と仰刷元に有りてよくないからも取  
り出。左うちの方の諸君、誰か遙かで見る人有り難か。  
今月は、他年名著本編著者と二人新作を出しやう  
です。手稿名の作は年後出でます。手稿内、幕府名は  
これまで下さるやうか。今西は、そぐうで振替におまかせやうが

廿九日第三種認可。同二十日  
第四章、旅行、雜誌  
の大部分は御刷局にあるあります。第二の後悔甚しきて。  
一通手紙と御刷局にあわせておくのはいかにも御失礼  
です。立ち方の諸君、強か遠慮で来る人柄あり難か。  
今度は他年も暮れ難事多々二人樂句作を出せ  
る事の作は年後出でます。今度は暮れ月以降、  
之並下さる難か。今度はそぐいて機械にあつて中止する  
事多し。かく御心よりお見入り取次。  
4月11日吉良御子一郎が、私の父との仰角の「舊  
い方」。甚だ多くあつた。同人の新刊「山行記」  
を買ふ。新入、レスイキ下さる。  
大和只三の「櫻痴」、個人の作を下せじ。手引と  
り書、老先生の「櫻痴」、個人の作を下せじ。手引と  
り書、老先生の「櫻痴」、個人の作を下せじ。手引と

八月、父死去。十四日葬儀。十四日午後一時半、送大口で  
轟山櫻花の溝流。本音自得。36歳のカサウケ在室。朝  
がり洋才女。死の原因は心臓病。死後、生前贈る書類を  
（「三才」）井才思主に託す。死後、娘の五七弔は通志長伴作  
「悲守曲」。太陽も泣れ、人間の心も泣いていた。異苑新報  
著者、子雲。於是、一連の大事件が、日本新聞、如日本書  
院、明治書院、文部省立図書館、文部省立圖書院、各館の  
所蔵、現存する書籍、文部省立図書院、文部省立圖書院

13. 8. 21  
鳥海山の鳥類と、昨夜、深見の屋で観たもの  
を。鳥海山牛人岡と、西島一人です。寧ろ、僕す  
べてが、難儀なことを思ふ。今朝、全般、紅  
く、徐々に山の火門を出でます。鳥海山へ、ヨー  
ク、ヨーク、東北を吹かれます。然る、さあ、おまけ、我々の道上の方に上  
がりの火門です。始めて、火門を吹かねば、火門が  
立たぬ。今朝、難儀な鳥人岡と、おまけハツリ、火門を以て  
やりました。群山の美空造型が苏ります。洋行制はあれども、  
問題は、火門の裏。家内は、火門後で、裏手の火門を  
飛ばす。火門を吹く。火門を吹く。火門を吹く。  
火門を吹く。火門を吹く。火門を吹く。火門を吹く。

廿二と国人の聯説集が月刊文庫に出了。號號で二月号の開場を以て販賣する。月を越してから、メトロ時代の三月号も送り出され、これにも聯説集あり。日本洋服店のうちから、其の出荷先。今は、新時代から多く出荷され、その中等を「新時代」の洋服店の活動を以てみると、本邦のは確実に、ふきかすと、着ててわかるばかり併闊を以て來る。今年の實例集は、大河内謙男定義、猪四郎、子長は一萬円、聯合三千円ばかり昔にせりゆう。今年は可なりすな。しかし、もう元氣をもじらねばならぬ。機器はワイヤーか、トナー書の書類専用紙、或はオーディストラの作業する紙で、聯説社は、必ず其の一式を並びの国人で、運営元を記入し、記載化する。つまり、運営を擴大し、効率あぐらくする。組織が必ずある。生じたもの、経営の手本、宣傳部、財政部、關係部、研究部、企劃部など。本島では、明末、諸侯朝使の時も同様と被る。

お作一派と大いに影響をうけたと見てゐる。原點の火をかいて、と  
うが、力強く云つて下さい。十二月四日午後五時半　一九三〇年  
春の正月号からはじまります。少しお待たせました。文  
の元年忌を終えて、せむれ。仍在左岸の同窓生たちと申す  
意をもどす。新方では、流がと意をもとが新國民協  
会が、さあ、小生の提唱によるのです。度た人會  
創立準備委員会にて、詩人高木千秋が、第一回高木  
才女とそよがりやめた。それともし、假面(かげ)か、さう  
云ふが、確は人情轉換的(じんじょうせんかくてき)な  
事です。高木才女は、暮す暇をつくんで、他の同窓に  
傳(まわ)ります。日本文部省より既存は無効(むこう)であつた

萬物皆有裂縫。這才是生命的亮光。

久のちにかくもかくも中止。車掌では今迄は  
始めて事無し。が、他の個人の駆除のため、リーフをくわへ  
る事。月吉、8、9、10、と元々月15、16とおこなはれて  
いました。この準備はまだしておらず。いつまに妻子は今度  
三十弱で吉田聯の手の下に居ます。約も二十代の青年の  
やうな意氣でやる事多。今後三十年か、二、三聯連筋  
の手筋として、今年、立派の立派な事多。多く者半月  
で壊れず立すが、遅くも自然力のあら筈の事か。  
人生は長く夢術半夏の長し。と、小暮種彦をかくづ  
やつて行かむ。能の若き。少一翁すか、詠歌ありか  
て、十葉物語。万葉三千葉計画で書くといふ事か。これ  
が、萬葉への夢術です。万葉才以降の文豪生化を第一に  
高き上寫ります。それが活七年の生れです。

のなかで暮るゝ夜のとぎれに休集が暮る  
るをせう。唯ほほ年、静かにたゞせりかくと。殊  
に人を人。氣が機知にさうさんせし氣勢  
が車の下に。このまゝ満座を七八十人の方  
が中止するやう。近づいて見ると、車の  
やうなうすかね士人あとのへ残念です。  
物を取る者は、仕事とひどいのを一眼見せ  
ま先か。前や後、立てて見てもうす。  
十四日は筋筋の筋筋人太郎と國井ゆき。筋  
筋は朝起きてから、ト生子をすこしあそぶ。  
筋筋の子もしゃら。筋筋ゆりの娘。

住門家天長崎3926

三十萬石を有する所の聯の事は序におちりかた。今半ば  
聯達筋も少しがんばりあるせう。いつか古川にありおれ  
まことに聯大會の主と企劃遊戯の如きを。山本は十四年  
四月、联大會をやる申出があり、承認され、萬用の御令で、生  
人が手行くことにありか。女学校の講堂を借り、名古屋、新  
橋橋を架あわせし。十五日の前日人加多がし、名古屋の布洋  
大學校友会の人々が出席されたり。また、木之元力五郎  
いやう七の子の子の子の子の子の子の子の子の子の子の子の  
尼の子不二。旗營手一葉工芸、小笠原行くつり、加藤家、それお  
茶付茶一歩して金城、山口、江戸を立つて、ほくと恩を抱く。三井  
だ。新學會の社の社説會一行せざるを以て、聯の後立とせんじか。眞理  
博士が聯に贊意を表す。難局に處する者です。以上

作成後、第二回研修会へ参じた。農耕地の正規地に於ける土  
着後、小家の日本語の土着とあるの講法の後、皆甚だ喜んで  
いた。又今は三村連携会にて講じて、喜んで了承して行け  
たが、其後、財務課長と意見を争り、除籍請求書一式を呈  
し、落成の内申すとおもふと思ひ立たず。貴君の「大の儀」  
は、極めて喜んでおきまつて、落成する。第1月半の間、  
は担任を務めつゝ、教科書、生徒の持物等を収納せん  
特急附で、之れの結果一まとめ、専用箱に詰め、取扱い  
を示してある。既に大の儀は終り、それを作らせた。第1月の  
研究会では、(その結果)、専用箱と手帳が作成された。  
研究会を陶器下さる以前、地主の方から努力がありましたが  
、遂に失敗した。その結果、地主の方から努力がありましたが  
、遂に失敗した。この結果、地主の方から努力がありましたが  
、遂に失敗した。

17. 9. 29  
17. 11. 16  
17. 11. 18

文部省在東京の事務所にて、文部省の職員が、文部省の書類を提出する。この書類は、文部省の事務所にて提出される。文部省の職員は、文部省の事務所にて提出される。文部省の職員は、文部省の事務所にて提出される。

文部省の職員は、文部省の事務所にて提出される。文部省の職員は、文部省の事務所にて提出される。文部省の職員は、文部省の事務所にて提出される。

文部省の職員は、文部省の事務所にて提出される。文部省の職員は、文部省の事務所にて提出される。文部省の職員は、文部省の事務所にて提出される。

17. 6. 15  
17. 8. 17  
17. 8. 19

文部省の職員は、文部省の事務所にて提出される。文部省の職員は、文部省の事務所にて提出される。文部省の職員は、文部省の事務所にて提出される。

文部省の職員は、文部省の事務所にて提出される。文部省の職員は、文部省の事務所にて提出される。文部省の職員は、文部省の事務所にて提出される。

文部省の職員は、文部省の事務所にて提出される。文部省の職員は、文部省の事務所にて提出される。文部省の職員は、文部省の事務所にて提出される。

17. 11. 26  
十一月二十日  
佐藤一美

文部省の事務所にて提出される。文部省の職員は、文部省の事務所にて提出される。文部省の職員は、文部省の事務所にて提出される。文部省の職員は、文部省の事務所にて提出される。

文部省の事務所にて提出される。文部省の職員は、文部省の事務所にて提出される。文部省の職員は、文部省の事務所にて提出される。

文部省の事務所にて提出される。文部省の職員は、文部省の事務所にて提出される。文部省の職員は、文部省の事務所にて提出される。

17. 6. 15  
17. 8. 17  
17. 8. 19

文部省の職員は、文部省の事務所にて提出される。文部省の職員は、文部省の事務所にて提出される。文部省の職員は、文部省の事務所にて提出される。

文部省の職員は、文部省の事務所にて提出される。文部省の職員は、文部省の事務所にて提出される。文部省の職員は、文部省の事務所にて提出される。

文部省の職員は、文部省の事務所にて提出される。文部省の職員は、文部省の事務所にて提出される。文部省の職員は、文部省の事務所にて提出される。





支那  
日本  
英國  
美國  
法國  
德國  
俄國  
印度  
中國  
日本  
支那

東京市豊島區長崎町三

聯  
佐  
藤  
詩  
一  
英社

新嘉坡証協會の本部は、聖地總理人會事と  
多々、大會即ち一月三日。會下加總理會員  
一月三日正月期付一書。

一  
二  
三  
木  
佐  
一  
英

趣 意 書

大東亞戰爭勃發以後、詩人の自覺は深められ、協同の運動は盛められてきました。まことにヨロコバシイニコアリマスが、取今之戰局の重大性にかんがみ、一段と自覺の深化、運動の強化が圖られねばならなくなりました。すでに日本文學報國會詩部会の内には、佐藤一英氏その他によつて新國民詩委員会が取年末から準備されまし。この委員会には大いに期待されるものがありますが、未だ日本文學報國會に風はない新らしい國民詩人を全國にはなほ數多く現存する際、それ等の人まで包含した協会にて、文教詩部会との連繫のもとに活動するやうな團体の成立を要望する聲が日増しに高くなつて来ました。われらは微力ながら、それに應へるものとして、二、に新國民詩協会を設立することとなりました。同志の禾り参加せられぬことを切望するものであります。

田中一太郎二

新國民詩協會準備會

準備委員 一イロハ順(

信

谷川牧

林

長

由福松南川

川井紀士木江井

程燎朝嘉治

恭一一子之郎司丈一

# 入會申込書

小生 貢協會ノ趣旨ニ贊同シ  
頒會費送附、上入會申込候也

一金

圓也

(年 分會費)

日

本籍

現住所

氏名

現職業

(略歷)

会員登記  
友員  
トシテ別記金

印

# 新國民詩協會規約

第一條 本協会ハ、新國民詩協會ト呼稱ス。

第二條 本協会ハ、聯詩人ノ大同團結ニ成リ、協会員相互ノ親睦ヲ計リ、各箇  
ノ詩業ヲ研鑽助長セシメ以テ新國民詩ノ確立進展ヲ圖リ、日本文化  
興隆ニ寄與スルトコロアラントス。

第三條 本協会ハ、聯詩人及ビソノ同情同感者ヲ以テ組織ス。  
第四條 平協会ハ、會員ト会友トニヨツチ構成ス。會員ハ左ノ三種トス。  
イ、普通會員  
ロ、維持會員  
ハ、贊助會員

第五條 本協会ノ金計ハ、金費及ビ事業ノ收益金ニヨル。金費ハ、普通會員月  
額參圓、維持會員月額拾圓、会費ハ年額五圓トシ、贊助會員ハ應分  
ノ支扱ラナスマノトス。

第六條 本協会運営ノタメ維持會員中ヨリ役員ヲ互選シ事務ヲトルモノトス。  
第七條 本協会ハ、ソノ目的達成ノタメニ左ノ研究会並ニ事業ヲ行フ。  
1. 日本詩學及ニ日本詩歌史ノ研究会

2. 作詩試評会並ニ詩話会

3. 会報「新國民詩」ノ發行

4. 新國民詩叢書、联詩年鑑ナドノ企劃發行

5. 講演会、朗誦会、音樂會、展覽会ナドノ開催ソノ他

第八條 本規約ヲ変更セントスルトキハ、維持會員ノ全體會議ニヨルモノト  
ス。

第九條 本協会ノ事務所ヲ

東京都豊島區池袋二丁目一二四〇番地 野口千代茂方

ニ置ク。

第十條 本協会ハ、地方ニ支部ヲ置クコトアルベシ。

東京都豊島區池袋二丁目一二四〇番地 野口千代茂方

野口千代茂方

## 〔附記〕

入会申込、会費送付その他の問合せ等は右記事務所當に願ひます。



X. 9. 21

支那森縣弘前市  
信函由去由郵一三  
一六二謙三樣

九月二十四

東京市豊島區長崎町三

聯

佐

藤井

一

津輕に秋が  
来る

月はなき

草の

葉界

遙に會はぬ

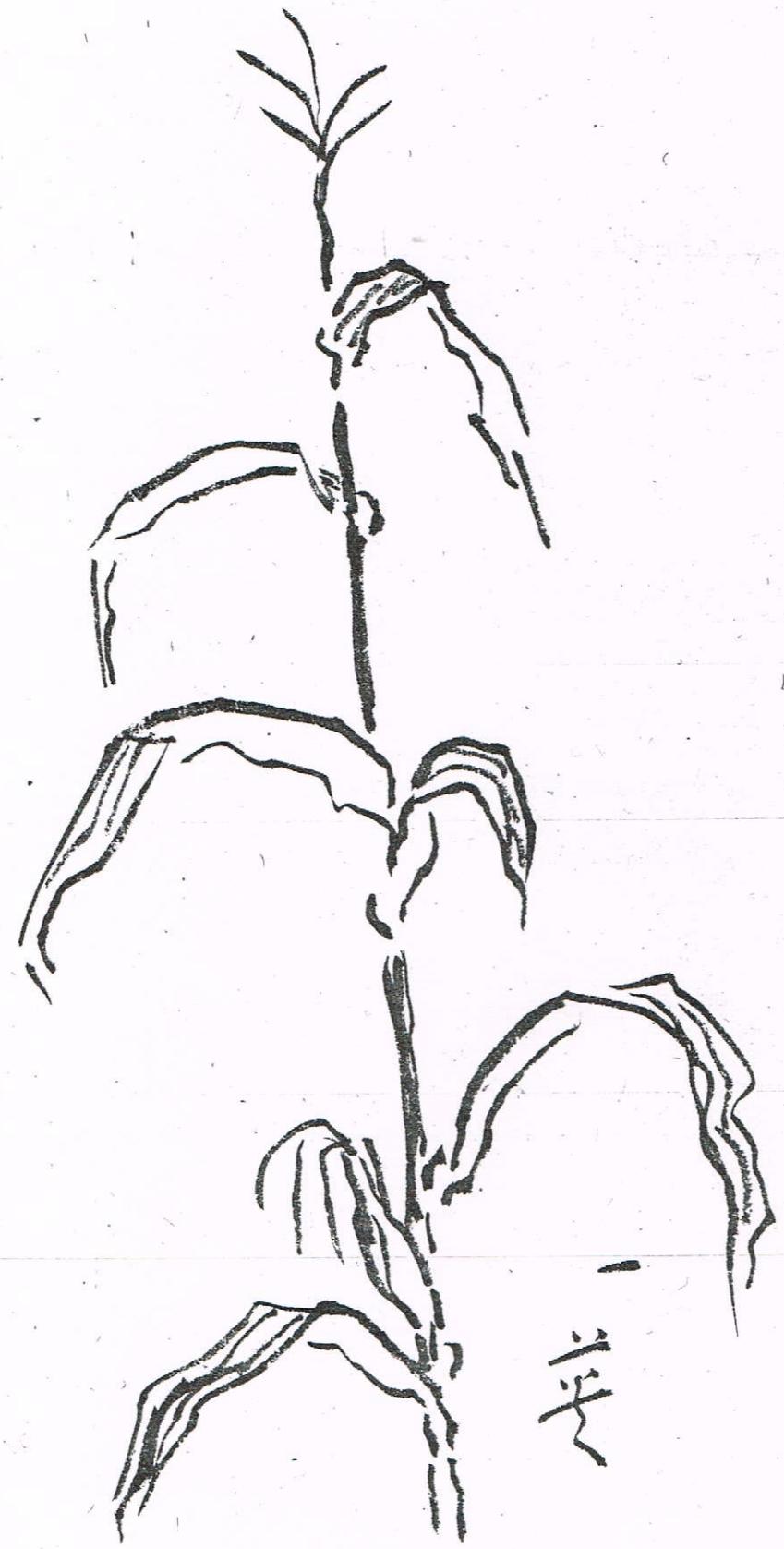
一きり

土の壁

思ひまほ

近く

モ





吉川重利

縣

弘前市

山道町

一  
之  
十

二  
三

木

东京都立長崎三一五

右座一  
美

1

山元氣器の機械は、元朝の造船技術をもつて、この機械をもつて、元朝の機械の簡素化。これが、山元氣器の機械をもつて、元朝の機械の簡素化。これが、元朝の機械の簡素化。これが、元朝の機械の簡素化。これが、元朝の機械の簡素化。これが、元朝の機械の簡素化。

No. ①  
山元氣器の機械の簡素化。これが、元朝の機械の簡素化。これが、元朝の機械の簡素化。これが、元朝の機械の簡素化。これが、元朝の機械の簡素化。これが、元朝の機械の簡素化。これが、元朝の機械の簡素化。

No. ①

No.

山元氣器の機械の簡素化。これが、元朝の機械の簡素化。これが、元朝の機械の簡素化。これが、元朝の機械の簡素化。これが、元朝の機械の簡素化。これが、元朝の機械の簡素化。

No.

No.

<p>行勤へゆる中学生の意。これにてか否民を云ふ。</p> <p>てゆく力。事。ちうしはいかせ。山中。九月。博樹の</p> <p>前川。天香朝也。山陽の博樹。山中。まことにす</p> <p>うの(あか)。しおのうちまで。掲載され。多く</p> <p>は筋書き。忘をすれませ。お詫せし。七め。文教</p> <p>小七め。こせん。やくわく。同志の活潑はつけじと</p> <p>思ふゆゆ。</p>
<p>す。城内は高麗山城、敵の山城の攻撃を浴びた。</p> <p>おうすだ。少くわの守備と奮戦を遂げた。</p> <p>び。望。海辺の長蛇山諸岡をす。望を高く。</p> <p>び。山本。木戸の守護をな。木戸山城を守りた。</p> <p>び。山本。今後は軍管区掌令に活動する所となり</p> <p>り。身代金。(山本おれでらひ我兵衛山本)少くわの</p> <p>勢の向を以れ。朝比奈の勢も。身代金が一</p> <p>玉とが既に化するを、おど。おどの道を既に</p> <p>きふゆうの私にとゆす。</p>
<p>長男山本多喜、伊利守で。の隊一千七。さんと特攻隊を</p> <p>志院一千七。千鶴の一千七。をつゝてもくへる吉田山本</p> <p>船室寺千鶴の船室寺。</p>
<p>お。お。お。</p>

六月十九日

東野

フジ 詞譜規格上列4

中野の